

どうする？ 北海道 どうする？ 中小企業

～北海道×暮らし・環境・ITの視点から～

2026.2.18 (水)

14:00～17:00 大久保記念共育ホール

(札幌市東区北6条東4丁目1-7 デ・アウネさっぽろビル13階 同友会事務局内)

オンライン(Zoom)でも配信
2/13(金)までにお申込み下さい

参加費
無料

地球的規模で広がる気候変動。道内各地で観測史上最高気温を更新し、冬のオホーツク海の流氷は40年間で30%も減少するなど、影響はあらゆる分野に及んでいます。

今回は3名の報告者を招き、道内の気候変動の過去・現在・未来を展望すると共に、海洋プラゼロへの挑戦やITを活用した海難救助インフラ構築の取り組みなど、中小企業の新たなチャレンジに学びます。ぜひご参加ください。

報告 1 北海道の気候変動影響の過去・現在・未来

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所
環境保全部 水環境・気候変動グループ 主査 鈴木 啓明 氏

＜プロフィール＞2009年、東北大学大学院理学研究科地学専攻を修了。北海道庁を経て、2013年、北海道立総合研究機構 環境科学研究センターに入職。2023年より現職。同年、室蘭工業大学大学院工学研究科にて博士(工学)を取得。専門は水文学、気象変動影響。



報告 2 中小企業が挑む環境問題を価値化する方法 ～海洋プラゼロへの挑戦～

株式会社エルコム 代表取締役社長 相馬 嵩央 氏

＜プロフィール＞2013年に環境機器メーカーである同社に入社。海洋プラ問題、ごみ管理や省人化など、現場発の環境課題解決に製品開発・事業の両面から携わる。2023年に事業承継し、代表取締役社長に就任。同年、「きれいで豊かな海を次世代につなぐ」ことを目的にクリーンオーシャンプロジェクトを一般社団法人化し、代表理事として企業・自治体・市民をつなぐ活動を展開。



報告 3 知床における地域の助け合いによる 海難救助インフラの構築事例

株式会社よびもり 代表取締役 千葉 佳祐 氏

＜プロフィール＞1995年紋別市出身。北海道紋別高校と山形大学理学部卒。九州大学理学部在学中に「よびもり(IDnanoFreaks)」を設立。漁師や海上事業者向けに助け合い海難救助サービス『よびもり』を展開中。事例として、観光船事故のあった知床で観光船や漁師同士の救助インフラを構築。



主催：産学官連携支援協議会
(事務局／一般社団法人北海道中小企業家同友会)

●構成機関

北海道経済産業局、北海道、北洋銀行、北海道銀行、しんきん北海道金融センター、東海大学、札幌学院大学、産業技術総合研究所北海道センター、北海道経済連合会、北海道科学技術総合振興センター、北海道中小企業総合支援センター、北海道立総合研究機構、北海道発明協会、中小企業基盤整備機構北海道支部、北海道中小企業家同友会、北海道中小企業家同友会産学官連携研究会(HoPE)(順不同)

●申込方法

氏名、企業・所属機関名、役職、メールアドレスを明記のうえ、2/13(金)までに下記申込書またはメールにてお申込み下さい。

お申込み・お問い合わせ

TEL.011-702-3411
FAX.011-702-9573

＜メールアドレス＞

sangakukan-renkei@hokkaido.doyu.jp

(担当事務局：小村)

2026産学官金連携セミナー申込書(2/18) ☐ ご来場 ☐ Zoom ◀ご希望の参加方法に印をつけてください

氏名		所属	
役職		メールアドレス	

オンラインでの参加にあたって

お申し込み頂いたメールアドレス宛に、オンライン参加に必要な情報(参加方法、URL、パスワード等)をお送りしますので、メールアドレスは必ずご記入願います。※本参加申込書にご記入いただいた個人情報は、本セミナーの実施、運営以外に使用することはありません。